

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・小学生とAPUとの交流を通して、多様な考え方に触れる機会を創出できた。
②	・県内4大学（APU、別府大学、大分大学、日本文理大学）の留学生と地域の学校をつなげることができた。 ・県内留学生等との交流を通して、小学生の異文化理解が進んだ。
③	・大分上野丘高校がSGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受け、APU国際学生との協働によるレポート作成や、ベトナムへの課題研究のための国外研修を実施し国際的に活躍する意欲と力の涵養ができた。
④	・国際交流員を活用した「国際理解出前講座」により県内若年層が外国人と触れあう機会を創出。異文化を知る事の有意義さを学校側に実際に理解してもらい、学校交流受け入れへの理解と意欲を促進した。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名（26年度事業）	事業コスト（千円）	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	27年度の方向性	
①	緊急雇用国際人材育成支援事業	5,539	A	継続・見直し	18
②	外国人留学生支援事業	32,822	A	継続・見直し	17
③	緊急雇用国際人材育成支援事業	5,539	A	継続・見直し	18
④	緊急雇用国際人材育成支援事業	5,539	A	継続・見直し	18

【VI. 施策に対する意見・提言】

○「安心・活力・発展プラン2005」第3回発展部会（H27.1）

・グローバル人材の育成について、語学力だけでなく、様々な経験・知識・興味を持たせるといふ視点が必要。
・グローバル人材について、NPO等地域コミュニティを使って教育し、その人材を発展に結びつけることが教育の分野でもできないか。

○「安心・活力・発展プラン2005」第4回発展部会（H27.2）

・グローバル人材の育成については、表現力も大事だが、自分がどこに立っているか、日本の、大分にいるということをイメージできるような学習が必要。

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
C	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生国際交流活動推進事業については、平成26年度で終了。27年度からは、市町村が国際交流活動に取り組む情報面での援助を行う。 ・国際人材の育成については、27年度より小・中学生を対象としたイングリッシュ・キャンプを実施する。 ・SGHの取組を、本県のグローバル人材育成のモデルとし、その成果を県内各高校に波及させる。 ・国内外で開催される訪日教育旅行説明会へ参加するなど、中国、韓国、台湾等からの誘致に積極的に取り組む。 ・訪日教育旅行では、国際人材育成推進コーディネーターを配置し、学校交流受け入れ体制の充実を図る。